

2022 年度「卒業生調査」の実施について

下記の目的で、卒業生調査を実施します。

2021 年度は、卒業後 1・5・10・20 年目の卒業生合わせて 1213 名を対象に実施、回答数は 70 件で回収率は 5.8%でした。

1. 目的

- ①卒業生が社会人基礎力の中で特に必要と思っている項目を把握する。
- ②卒業生を「10・20 年目」と「1・5 年目」に分け、前者には経験を踏まえた意見等を、後者には大学での教育等に関する質問を中心に意見等を聞く。
- ③教学マネジメントの基礎データとする。

2. 調査対象／ 1217 名（該当年度の住所判明者のみ抽出。総卒業生数は 1412 名）

（1 年目 380 名、5 年目 360 名、10 年目 282 名、20 年目 195 名）

3. 依頼方法

- (1) ホームカミングデーの案内同封
- (2) 個人アドレス登録者には、回答 HP のアドレスを送付

4. 回答方法

- (1) 回答用紙の返送
- (2) Web による回答（大学 HP から）

5. スケジュール

時 期	内 容
2022年 4月27日(水)～ 6月22日(水)	就職支援協議会にて検討
7月12日(火)	大学部長会
9月 5日(月)	公文書送付
10月31日(月)	回答締め切り
11月30日(水)	就職支援協議会 結果報告 分析開始
12月13日(火)	大学部長会 結果報告
12月21日(水)	教授会 結果報告
1月25日(水)	就職支援協議会 分析報告

以上

2022年度

◆聖隷クリストファー大学卒業生調査（全学部）

卒業後1年目・5年目

<自分が今有していると思う能力について>

○基礎的な能力（「有している」・「やや有している」と回答した上位回答項目）

【卒業後1年目】

1位：意見の違いや立場の違いを理解する力、2位：相手の意見を丁寧に聞く力、3位：社会のルールや人との約束を守る力

【卒業後5年目】

1位（同列）：物事に進んで取り組む力、相手の意見を丁寧に聞く力、自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力、社会のルールや人との約束を守る力、ストレスの発生源に対応する力

○本学が卒業時に専門職者として求める能力（「有している」・「やや有している」と回答した上位回答項目）

【卒業後1年目】

1位：多職種と連携・協働することができる、2位（同列）：様々な価値観を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている、社会のニーズを捉え専門職として自己研鑽することができる

【卒業後5年目】

1位（同列）：多職種と連携・協働することができる、専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している、様々な価値観を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている

<社会人基礎力を身につけるための必要年数>

（1年目+5年目）3年：8名　5年：7名

<在学中の学びで有益であったと感じているもの>

（1年目+5年目）1位：実習、2位：専門領域の授業、3位：基礎・関連領域の授業

<全体から>

卒業後5年目の回答数が少なく十分な評価ができないが、基礎的な能力・専門職者として求める能力とも卒業後1年目では「どちらとも言えない」「あまり有していない」「有していない」に回答するものの割合が多い。年数としては3～5年を要すると認識している割合が高く、1年では十分な能力が形成されていないと自己評価されている。実習は有益であると捉える者の割合は高く、現場でしか経験できない貴重な体験と認識されている。リカレント教育に対する要望として、遠方でもオンラインでより容易に参加が可能な方法や事前アナウンスの時期など検討課題である。

卒業後 10 年目・20 年目

<新人（後輩）職員について>

○新人職員に求める能力について（「求める」・「やや求める」と回答した上位回答項目）

【卒業後 10 年目】

1 位（同列）：物事に進んで取り組む力・社会のルールや人との約束を守る力、2 位：相手の意見を丁寧に聞く力、3 位：自分の意見をわかりやすく伝える力

【卒業後 20 年目】（「求める」と回答した上位回答項目）

1 位：相手の意見を丁寧に聞く力、2 位：社会のルールや人との約束を守る力

<社会人基礎力を身につけるための必要年数>

（10 年目+20 年目）3 年：4 名　　5 年：4 名

<全体から>

卒業後 10 年目・20 年目が新人職員に求める能力について、「自分の意見をわかりやすく伝える力」の項目は上位に挙げたが、卒業後 1 年目・5 年目の回答では「有している」「やや有している」の割合がやや低かった。新卒職員に対して感じていることとして、コミュニケーションの課題や生活体験の乏しさ等が挙げられ、卒業後 10 年目・20 年目が在学中に学んでおきたかったこととしても「コミュニケーションの方法・理論」や「コミュニケーションをとる意識・能力」が挙げられていた。自己の考えを具現化し、表現する力を基礎教育で強化することは一つの課題であると考えられる。